

科目名	作業療法評価学（発達障害）	担当教員	佐藤拓也 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	---------------	------	--------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	講義

科目概要	発達期に生じた障害を有する小児にとって課題となるADL、遊び、学業（就労）について作業療法が支援をする上では、これらの基盤となる運動機能、感覚－知覚－認知機能、心理・社会機能といった作業遂行要素への介入が必要となる。作業遂行要素は相互に密接に関係しながら発達しており、対象児にとって必要な支援の方法を探るため、これらの発達過程について理解を深め、幅広い視野をもって、対象児の障害構造を評価する視点を養う。
学習目標	①発達障害領域における作業療法評価の概要を理解する。 ②発達障害領域での主な作業遂行要素、および総合的な評価の視点を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	評価の概要	発達障害領域の作業療法、評価～治療の概要	発達障害領域における作業療法、および評価～治療の概要について理解する。	
2	評価の実際	検査の種類と選択（概要）	発達障害領域で用いられる種々の検査の目的・適用範囲などについて理解する。	
3	評価の実際	情報の収集と解釈	収集すべき情報の種類と得られた情報の解釈の視点を理解する。	
4	評価の実際	姿勢・移動運動発達の評価 1	粗大運動（姿勢・移動）の正常発達過程に則った評価の視点を理解する。	
5	評価の実際	姿勢・移動運動発達の評価 2	姿勢・移動運動の正常発達からの逸脱について、疾患の影響を考慮した評価の視点を理解する。	
6	評価の実際	上肢、視覚、認知機能の発達評価	上肢、視覚、認知機能について、粗大運動発達との関連から評価の視点を理解する。	
7	評価の実際	感覚－知覚機能、心理・社会機能、遊び、ADL、学業（就労）の発達評価	感覚－知覚機能、心理・社会機能、遊び、ADL、学業・職業選択について、正常発達過程から評価の視点を理解する。	
8	まとめ	事例を通じた総合的評価	事例を通じて各要素の相互的な関連を整理し、総合的な評価の視点を理解する。	

評価方法	筆記試験(100%)
------	------------

教科図書	鎌倉矩子、山根寛、二木淑子・編『発達障害の作業療法 実践編 第2版』三輪書店、2015年
------	--

参考図書	前川喜平・著『小児の神経と発達の診かた』新興医学出版社、2003年 大城昌平・編『リハビリテーションのための人間発達学第2版』メディカルプレス、2014年 奈良勲、鎌倉矩子・監修『標準理学療法学作業療法学 人間発達学』医学書院、2010年 など
------	---

学習の準備	人間発達学、発達障害基礎論で学習した内容について復習しておくこと。
-------	-----------------------------------

オフィスアワー	講義1回目のガイダンスで説明する。
---------	-------------------

担当教員欄に※印を附した教員の 実務経験	
-------------------------	--